



# 五小だより



五小ブログ



五小ボランティア

11月号

令和6年10月31日  
国分寺市立第五小学校  
042-322-0045  
校長 齋藤 晃

## 秋の生活科見学にて

～自然の中での実体験と大人の聞く力について～

校長 齋藤 晃

本校では、9月末から10月末まで、低、中学年の生活科、社会科見学や遠足など校外学習が続きました。10月24日（木）1年生の生活科見学で 好天に恵まれた都立武蔵国分寺公園を訪れました。日なたではまだ暑さを感じたものの、公園の中は至る所が秋に彩られていました。

子どもたちは、黄色や赤に色づき始めた様々な葉っぱ、そしてイガに包まれたクリやドングリなど様々な秋の収穫を見つけては、担任や我々教員に「見て見て！」と報告してきました。そして持ってきた袋に大切にを入れていました。当日その「宝物」はすべて各御家庭に届けられたことと思います。また、広い芝生の上での鬼ごっこでは思いっきり走り、転げ回り、じゃれ合って心ゆくまで外遊びを楽しんでいました。

子どもたちの成長や発達には、自然の中で仲間と共に過ごす実体験が大切であるといわれます。そして子どもが自分の経験を、頼りにする身近な大人に「報告」=アウトプットし、認めてもらう欲求を充足させることは、新たに学んだことを記憶に定着させるとともに、心の安定や自信を育み、新たなことへ挑戦するなどたくましく生きていく力を生むといわれます。

「見て見て！」次から次へと行われる「報告」に一生懸命笑顔で答えながら、私は子どもたちの「報告」を「発言」と捉えてみました。普段の教室でも「発言」は大切ですが、これほどたくさん「発言」を引き出すことはなかなか難しいことです。今回の生活科見学では、自然の中での実体験が積極的な「発言」=アウトプットを引き出すことを実感しました。

さらに晴天の下「ねえ、見て、見て！」と、聞いてもらいたい欲求を素直にぶつけてくる子どもたちに、いろいろ工夫し真剣に対応しているうちに私はふと不安になってきました。現在6歳になる我が子の「発言」=アウトプットを、普段こんなふうに大切に受け止めていただろうかと。

息子が生まれて3歳を過ぎるまでは、立って、歩いて、食べて、言葉を話して、何か新しくできるようになる度に心から笑って喜び、一方的に褒めて認めていました。しかし保育園に入ってから、一緒に過ごすのは一日わずか数時間。話せるようになってわずか数年目の息子がなんとか紡ぎ出した言葉に耳を傾けるどころか、朝起きて保育園に出かけるまで「はやく！」と急かし、夕方帰宅して寝るまでの約2時間も、野川から拾ってきた物を食卓テーブルの上に置いては「だめ」、おもちゃは「出しっぱなしにするんじゃない」、そして「早く寝なさい」、主体性を育むには程遠い「指示」や「命令」、「禁止」や「否定」の言葉を、やはり一方的にかけてきたことが多く思い出されました。

保育園もあと半年。これからは彼にとっての今日一日の出来事や経験について嫌なことも含めたアウトプット＝「パパ、あのね」に意識して耳を傾けようと思いました。そして躰けも「～するのはどう？」と提案程度にとどめ、食卓に置かれた本日の野川から届けられた彼にとっての宝物も邪険に扱わないよう気を付けたいと思います。

さて、最後になりましたが11月には本校において「国分寺市市制施行60周年記念 令和6年度音楽会」があります。改めて当日まで、ご家庭でもお子さんたちが頑張っていることやエピソードに耳を傾けていただけると嬉しいです。そして当日は、子どもたちの奏でる音色、歌声にぜひ大きな拍手をお送りいただけるようお願いいたします。